



不当請求にご注意！



使用した覚えのないツーショットダイヤルの利用料金の
不当請求が増えています
～請求されても支払い義務はありません～

●相談1(50代 女性)

夜中の1時、2時に電話があり、ツーショットダイヤルの利用料と延滞料、調査料約13万円を請求された。息子も使っていないというが、「身辺調査をさせてもらう。電話機を競売にかける。折をみて訪問する」などと言われて、こわい。

◆ 处理結果

山梨県消費生活センターより業者に、利用明細やツーショットダイヤルの電話番号などを照会したが、いずれも明らかにしないまま、業者の対応は途切れてしまった。根拠のない不正請求である疑いが強く、滞料も不当に高額なので、支払いには応じないこと、また、警察に相談することを助言した。

ツーショットダイヤルとは、電話を通して不特定多数の男女が会話をするというものです。電話会社から請求される通話料のほかに使用した電話サービス提供業者に情報料を支払う必要があります。

●相談2(40代男性)

突然の電話での請求に覚えがないので、利用したという電話番号を業者から聞き出した。電話会社からは通話の明細記録をもらって照合したが、該当する利用記録はなかった。

◆ 处理結果

使用していない明らかな証拠があり、請求は全く不当なものである。警察に被害届けを出すよう助言した。



▶ アドバイス ◀

▼けん銃などに関する情報は、
都留警察署 (45) 0110
または、
銃器一一〇番
055-231-1074
までお寄せください。

銃器をめぐる全国の情勢をみると、銃器の発砲は、かつては暴力団社会のものでしたが、今日では、銃口が市民生活、企業活動、政治、言論活動などに向けられています。

昨年中は、都留市内では幸い無発生でしたが、県内では発砲事件が二件発生し、一人が重傷を負い、けん銃七丁が押収されており、銃器情勢は依然として予断を許さない状況にあります。

銃器犯罪の根絶は、警察などの関係機関のみでは達成することは困難であり、安全で、安心できる社会を作るためには、皆さんのご理解とご協力が不可欠です。

「けん銃のない
安全な社会を」

都留警察署情報発信コーナー



※あなたの情報が、銃器犯罪根絶につながります

-



25 H.12.4.1